

# 福井企業の発展方策を考える

－いくつかの提案－

## 1. 産業的伝統を抱える地域

－福井の強みの再認識の必要性－

幕末期、福井を含む北陸地方は、世界的に見たハイテク先進地域と呼べるほどの地域であった。

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| ①経済的生産力の高さ       | 米の生産力の高さ、当時から米作単作地帯 |
| ②新興産業の勃興地帯       | 農村家内工業としての絹織物工業     |
| ③当時の高速交通手段を有していた | 北前船                 |

福井は都市の見かけや外見的にはそれほど産業県という印象は受けないが、長い産業地域としての伝統を有する地域である。つまり、産業的な伝統は、福井にとっての歴史的な資源の一つになる。

## 2. ものづくりに関する強みをより磨き、高度化する

福井の産業構造は、グローバル化時代における競争力や適合性という面では相当弱点があり、偏りもあるといえるが、それでも福井の地域発展の基盤が産業の比較優位にある、とりわけものづくり製造業の比較優位にあることはたしかである。そこで、今後の地域発展においても、こうした比較優位性を現代的なかたちで生かしていくことは、第1の考慮事項となる。

## 3. 売る力を高める、市場対応力を高める

今日のもの余り成熟経済下においては、単にものづくりに関する強みをより磨き、高度化するだけでは十分でない。これと合わせて売る力を高めていく、市場対応力を高めていく必要がある。これは福井企業が苦手としてきたマーケティング力をつけるということであり、マーケティング志向型企業、あるいはブランド志向型企業に脱皮するということでもある。

## 4. リーディングカンパニーの明確化と役割の明示

### ①リーディングカンパニーとは

ここでいうリーディングカンパニーとは、単に相対的に規模が大きいとか、業績をあげているというだけではない。企業発展と地域発展を重ね合わせ、一体化できるような企業についていう。

### ②リーディングカンパニー相互の協力と競い合いの場の設定

リーディングカンパニーの経営者が相互に切磋琢磨し、研鑽する相互学習の場をつくる。これがリーディングカンパニーの範囲を明確化し、特定化していくことにもなる。

### ③リーディングカンパニーの経営者に期待する役割

リーディングカンパニーの経営者は、地域の経営者や経営者予備軍の起業家志望者に

地域企業発展の担い手となるよう叱咤激励し、前向きな企業活動を起こさせる存在である。いわば地域企業に化学変化を起こさせる存在といってもよい。より具体的には、「リーディングカンパニーの経営技術を学ぶトップマネジメントセミナー」の講師役を務めたり、そうしたセミナーの開催に協力することなどである。

#### 5. 女性の力と視点を産業発展に生かしきる

これは、女性の有業比率の高さという伝統を受け継ぎ、現代的なかたちで生かしていくことである。

- ①技術開発、商品開発、デザイン、マーケティング等の分野においては、徹底的な女性活用を図る
- ②とりわけ、ものづくり分野では、女性技術者の意識的かつ飛躍的な増大を図るようにする

#### 6. ものづくりに関する強みや、売る力、市場対応力の高い企業の集積を図り、それらに関する徹底的な情報発信に努める

福井は、全国的水準との比較でいえば、産業的にもきわめて小さな規模となる。それゆえ、ものづくりに関する強みや、あるいは売る力、市場対応力の高さについても、そのままでは小規模分散的な方向に向かう力が働き、外部への強力な情報発信という面ではきわめて不利になる。したがって、これらの強みや、売る力、市場対応力が高い企業は、地区的な面からも集積を図り、さらにこれらを強力に外部へ情報発信していく必要がある。こうして、地域の経営力の高さをいわば対外的にも「見える化」していくのである。